



# サイエンスカフェ

コーヒーを飲みながら学際領域にとらわれず、  
聞きたい話したい。どなたでもお気軽にご参加ください。

No.6

日時：7月24日（水）18:30～

場所：キャンパステラス

演者：リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 准教授

宮本 恵美

## 失語症者における構文ネットワーク構造について ～格助詞を中心に～

発表概要：

みなさん、「太郎が見える」という一文を聞いたとき、どんな場面を想像しますか？「誰かが太郎君を見ている場面」、それとも、「太郎君から何かが見えている場面」でしょうか。これは同じ格助詞がであっても、いくつかの意味用法があり、前者のように感じた場合には、格助詞がを「経験対象の用法」で、後者の場合は「経験主体の用法」で捉えたというように考えられています。日常で私たちが何気なく使っている言葉には、同じ形で表されたものでも、様々な意味用法があります。

私は、約12年前、言語聴覚士として臨床に携わるにあたり、失語症の方は、その意味用法の違いによって言語理解や表出のしやすさに違いがあるのではないかという疑問を持ちました。その疑問を解決するために、人間のもつ一般的な認知能力や身体を通じた経験が言語の習得や使用に重要な基盤を成しているとする「認知言語学」の考えをもとに研究を始めました。

そこで、今回は、上記の点も含めて博士課程で研究した「失語症者の構文ネットワーク構造」について報告させていただきたいと思います。

◆サイエンスカフェ

お問合せ先：熊本保健科学大学附属図書館 電話096-275-2264  
内線1711



参加者特典：ポイントサービス開始！ポイントをためて、図書館オリジナルグッズを手に入れよう！